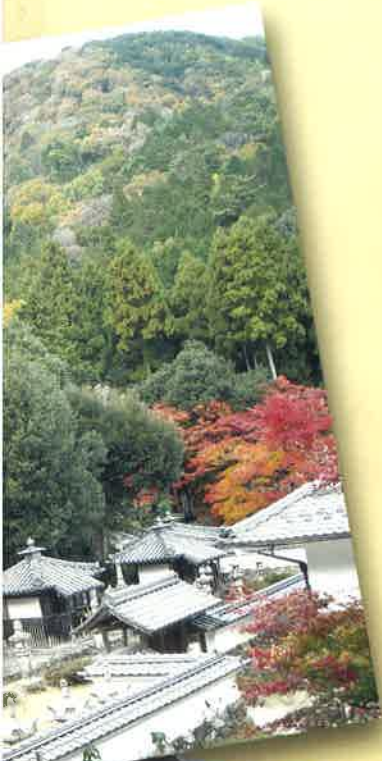


学校のまわりの宝物

—遺跡でたどる米原の歴史—

米原市教育委員会

2015.3





学校のまわりの宝物

—遺跡でたどる米原の歴史—

目次

米原の歴史の特長	2
伊吹小学校区	4
春照小学校区	7
柏原小学校区	10
大原小学校区	13
山東小学校区	16
息長小学校区	19
坂田小学校区	22
河南小学校区	25
米原小学校区	28



米原は歴史の「巷（ちまた）」

「巷(ちまた)」それは、道が分かれるところ。そして、人が大勢集まっている、賑やかなところ。さらに、交流が盛んにおこなわれているところ。そのような場所を「巷」といいます。

この冊子で紹介する米原の歴史は、まさに「巷」という言葉が似合います。数千年前の縄文時代からたくさんの方が、この米原を訪れ、住まいとし、また、通過していきました。現在でも、新幹線・米原駅を中心に、JR東海道本線・北陸本線、名神高速道路・北陸自動車道、国道8号・21号・365号と、日本の東西と北陸を結ぶ大動脈が通過しています。

米原市では、これまでに、遺跡ごとのリーフレット55種類、地域や時代で分けた遺跡マップ7種類、特徴的な歴史事象を取り上げた遺跡パンフレット8種類を作成して、各地域の遺跡を活かし、知っていただく見学会やシンポジウムを合わせて開催してきました。この冊子は、これらの成果を活かして、米原市全体を紹介するものです。紹介するにあたり、市内の小学校区単位でまとめました。校区は昭和30年代までの1～3つの旧村を単位にしています。地域性や歴史をもっともコンパクトにあらわしていて、それは校歌にも読み取れます。9つの校区を概観することで、米原市の歴史が見えてくると思います。そして、キーワードは「巷(ちまた)」です。

米原の歴史の特長

旧石器時代の石器の発見や、滋賀県最古の縄文時代早期(約6000年前)の人骨など、米原での人の営みは古く、その歴史には、大きく5つの特長をあげることができます。

■縄文人の楽園

里山が琵琶湖まで迫り、内湖が山と湖を結びつけていた米原は縄文人の楽園です。湖岸の磯山城遺跡や、姉川上流の起し又遺跡からは早期の土器が出土し、中期には番の面遺跡で竪穴住居跡が発掘されるなど、全域で遺跡が確認されています。

■息長古墳群

3世紀の中頃から低墳丘墓(法勝寺遺跡・西円寺遺跡)が築かれ、4世紀には前方後方墳(定納1号墳)をはじめとするさまざまな古墳が築かれ、後期には多くの埴輪をもつ前方後円墳が築かれたのち、市内全域で横穴式石室を持つ古墳が築かれます。

■伊吹・霊仙の山岳信仰

米原市の二つの山。伊吹山は神話の英雄・日本武尊を死に至らしめた荒ぶる神の山として知られ、山の神の力を得るために、山に籠り、滝や洞窟で修行する修行者が入山しました。霊仙山麓の豊富な湧き水は、水の信仰と結びついています。

■山城のまち

約1300か所の城跡が確認されている滋賀県のなかでも、上平寺城跡(京極氏遺跡)と鎌刃城跡という2つの国指定史跡をもつ米原市。北近江の京極氏、のちに浅井氏と、南近江の六角氏の勢力圏の境や、美濃国境に多くの中世山城が築かれました。

■街道と湊

古代・中世、都から東国への東山道が通り、京極氏の館や菩提寺が清滝に築かれました。箕浦には市場があり、北国街道が東山道と交差していました。近世、中山道・北国街道・脇往還が整備され6つの宿場がありました。朝妻湊は琵琶湖東岸の要港です。

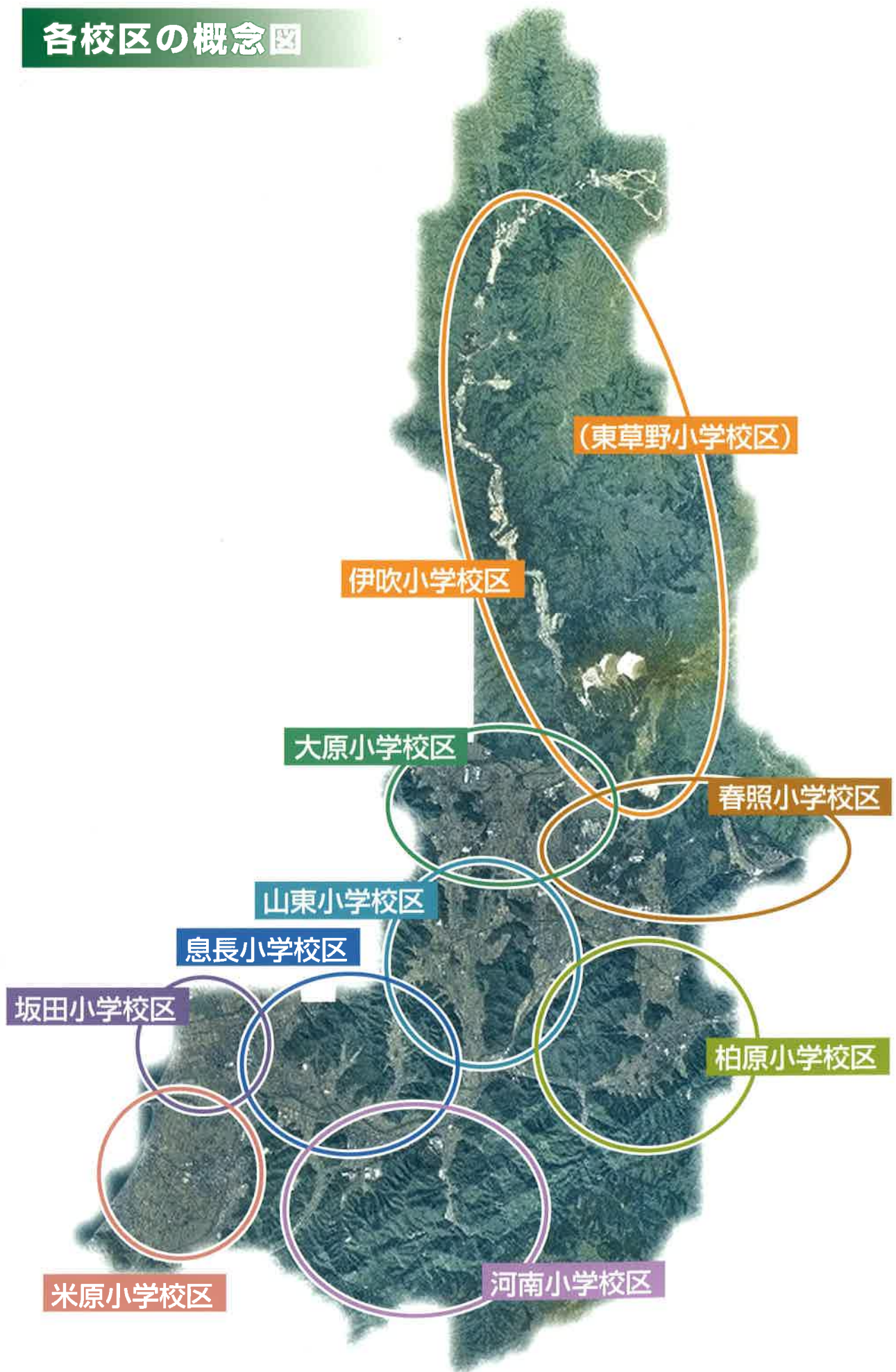


わたしたちが案内するよ!!

『まいばら時代マスコット』
イラスト/高橋健太郎



各校区の概念図



伊吹小学校区

東草野小学校区

【校区】

上板並、下板並、大久保、小泉、伊吹、
上野、弥高
甲津原、曲谷、甲賀、吉槻(東草野小学校区)



学校のまわりの宝物

1

伊吹の山は 朝雲はれて

若鮎おどる 姉川清し

白き学びや 陽にはえて

希望の姿 うるわし

あおわれらの伊吹校

2

光さやかに 田の面輝き

こだまも楽し 工場の響き

高き学びや 生氣あふれ

伸びゆく力 たくまし

おわれらの伊吹校

地域のようす

米原市の北東部に位置し、市内随一の広大な校区です。平成24年4月1日から休校中の東草野小学校区(姉川源流部の4集落で構成)の子どもたちも通学しています。校歌にうたわれた伊吹山と姉川にいだかれ、国重要文化的景観に選定された東草野の山村景観など、豊かな自然と清らかな水、おだやかな暮しと景観に恵まれる一方、冬季の厳しさもあわせもちます。小学校は、伊吹山麓の登山口・上野にあります。学区は姉川が流れる峡谷にそって南北に細長く、姉川の河岸段丘上に立地する9つの集落と、伊吹山麓の弥高川などがつくる扇状地の扇頂部に位置する2つの集落から成り立っています。子どもたちは、毎朝、正門前で伊吹山に向かってあいさつをします。校歌には、地域を支えたセメント工場が歌われています。



姉川上流部のようす(甲賀集落)

地域の歴史

縄文時代の遺跡が多い米原市の中でも、伊吹山麓は湖岸地域とともに密集地として知られています。トチやドングリなどの堅果類のアク抜き技術が発達した中期(約4000年前)頃から、山間部に生活圏を広げ、姉川沿いではいまの集落の1段上の段丘上に、伊吹山麓では、扇状地の湧水を求めて縄文集落が営まれました。伊吹山は神話の英雄ヤマトタケルを撃退した荒ぶる神の棲む山で、奈良時代から江戸時代まで、この神の力を得るために、たくさんの修行者が山に入り、弥高寺やたかしや太平寺ながおじ、長尾寺を拠点に修行をしました。



主な遺跡

■ 起し又遺跡（縄文時代／曲谷）

姉川へ流れる起し又川の南斜面(標高425m)にある、縄文時代中頃(約4,000年前)を中心とした遺跡です。調査では、5棟の竪穴住居のほか、柱状の石を添えて埋められた土器や丸い石を円形に配置した跡など、生活や文化がうかがえる遺構や、東海・中部・関東や近畿・瀬戸内など各地の土器が見つかりました。



起し又遺跡全景

■ ミミ塚古墳・人塚古墳（古墳時代／上野）

伊吹山麓で発掘された古墳時代終り頃(約1,400年前)の古墳です。ミミ塚古墳は直径約15mの円墳だったと考えられます。伊吹山の石灰岩で作られた横穴式石室からは、死者に供えられた土器や鉄の刀、馬の道具、金銅製の耳飾り、人骨片などが出土しました。石室は伊吹山文化資料館に復元されています。



ミミ塚古墳から山麓を眺める

■ 弥高寺跡（奈良～中世／弥高）

長尾寺跡（奈良～中世／大久保）

平安時代に建てられた伊吹山護国寺が発展して、弥高寺・太平寺・観音寺・長尾寺の四カ寺が成立します。弥高寺は、伊吹山から南に張り出す尾根の中ほど標高約700m付近にあり弥高百坊といわれ、たくさんの坊院跡があります。長尾寺は大久保の集落の背後に60カ所をこえる坊院跡群が扇型に広がっています。



弥高寺跡(国史跡)全景

■ 峠のシシ垣（江戸時代／小泉・大久保）

農耕地に侵入したイノシシは、一夜で作物を食べつくしてしまいます。小泉の南に張り出した台地は「峠」とよばれ、昔から農耕地として利用されてきました。高さ約2m、総延長約2kmの石垣が、台地全体を山から遮断するように築かれています。石材はすべて伊吹山の崩落地で採集される石灰岩です。



峠のシシ垣(市史跡)

校区のトピックス —伊吹山—

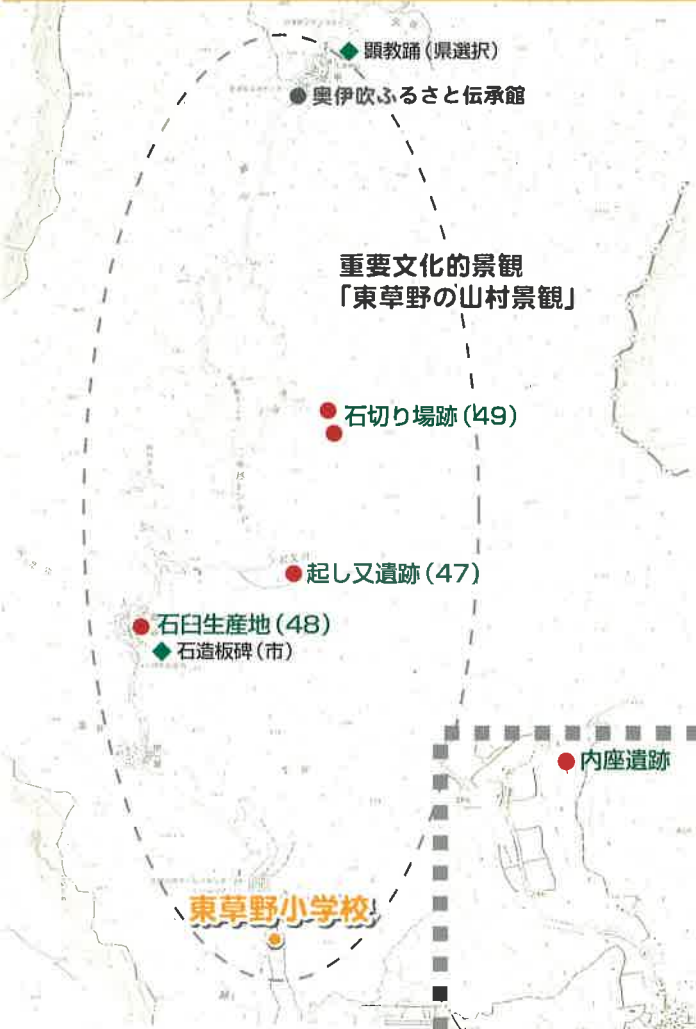
伊吹山の化石は、約3億年前の暖かい海の底のサンゴ礁の生き物たちです。伊吹山は、大陸の移動で約1億5000万年前に隆起した"古い山"です。北から若狭湾が、南からは伊勢湾がせまる本州の狭まったところ、東西日本の"真ん中"にあります。最古の歴史書『古事記』に登場し、伊吹山にしかない植物など、全国有数のお花畑が広がっています。



伊吹山頂のお花畑(国天然記念物)



伊吹山(昭和5年)



サナギ谷石切り場のヤ穴石

☆遺跡名のあとの(番号)は、米原市遺跡リーフレットに対応しています。
★遺跡リーフレットは、伊吹山文化資料館にあります。
☆(国)(県)(市)は、それぞれ国・県・市の指定文化財をさします。
ただし、石造物・史跡・天然記念物・民俗文化財のみ取り上げました。



オコナイ(甲津原)



伊吹山奉納太鼓踊り(上野区)



春照小学校区

【校区】

藤川、上平寺、寺林、大清水、村木、杉澤、高番、春照、伊吹ヶ丘、南川



2		1	
われら	春照小学校	霊峰伊吹	背にそびえ
広き文化に	さがげん	姉の流れは	永久に澄む
名におう由緒	たずねつつ	恵みの生気	みなぎりて
歴史は遠き	藤古川	高き理想を	打ちたてん
天与の資源	限りなく	われら春照小学校	

地域のように

校区は、伊吹山麓の東西7kmにおよぶ細長い地域で、西部・中部は、弥高川の扇状地で田畑が広がっていますが、東部は山林が大半を占め、谷合いに3地区があります。自然環境に恵まれたのどかな地域ですが、かつては、ほっごくわきおうかん北国脇往還が通り、明治16年から22年までは、日本でも5番目に鉄道（現在の国道365号）が敷かれるなど、北陸と東海を結ぶ交通の要衝です。学校は杉澤にあり、学校名は昭和31年の三村合併（坂田郡伊吹村・東浅井郡東草野村と合併して坂田郡伊吹村となる）すいじょうまであった坂田郡春照村の名前によります。校歌の'天与の資源'は、石灰岩をはじめとする伊吹山の恵みをさします。また、藤古川は、滋賀県内では珍しく琵琶湖に注がず、伊勢湾に流れる川として知られています。



泉神社湧水(名水百選)

地域の歴史

弥高川や政所川・藤古川が作った扇状地上にある各集落では、伊吹山からの湧水をよりどころにして、縄文集落が営まれました。大清水の井の田遺跡では縄文時代中頃(約4,000年前)の土器や石器が見つかっています。杉沢遺跡は縄文時代終り頃(約2,500年前)の遺跡で、昭和13年に湖北で初めての発掘調査がおこなわれ、あわせくちかめかん合口甕棺という埋葬施設が出土しました。寺林では、奈良時代後半から平安時代前半の街道に沿った集落が見つかっています。上平寺の京極氏館は、戦国時代に大名京極高濂が築いた拠点で、北近江の政治の中心でした。



主な遺跡

■杉沢遺跡（縄文時代／杉澤）

昭和13年の発掘調査で、2組の縄文時代晩期後半の合口甕棺が見つかり、多くの研究誌に紹介されて杉沢遺跡を有名にしました。以後、これまでに12基の土器棺が出土しています。石鏃^{せきぞく}や石皿^{いしざら}などの一般的な石器のほかに、多頭石斧^{たとうせきふ}や大小の石棒^{せきぼう}、石剣^{せっけん}、玉^{たま}、御物石器^{ごぶつせっき}などの儀礼的なものが多数採集されています。

■寺林遺跡（奈良～平安時代／寺林）

現在の集落の南に広がる水田で、奈良時代後半から平安時代前半にかけての地面を掘りくぼめて直接屋根を葺いた竪穴住居3軒と、地面に穴を掘って柱を立てた掘立柱建物^{ほったてばしら}12軒が見つかりました。寺林はのちの北国脇往還が通る交通の要衝で、古代にも東国から北陸へ向かう重要なルート上にあったことがわかりました。

■京極氏館跡（戦国時代／上平寺）

15世紀末頃に、京極高きが北近江での政治の拠点としたのが京極氏館です。同時に、山の上の上平寺城、台地上の家臣屋敷や城下町を整備しました。伊吹神社境内の館跡には、庭園跡や一族の墓地などがあり、発掘調査では、儀式で使われた素焼きの皿や中国や朝鮮製の青磁や白磁など高価な品も出土しています。

■上平寺城跡（戦国時代／弥高・上平寺・藤川）

伊吹山頂から南側に伸びる尾根上（標高669m）にあります。戦いの時の山城として京極高きが築き、その後、浅井氏によって美濃との国境を守る城として利用され、織田信長が攻めてきたときには、浅井方の堀秀村が寝返って開城しました。要所を堀や土塁で防御する構造は、典型的な山城の姿を見ることができます。



杉沢遺跡合口甕棺



寺林遺跡での発掘体験



京極氏館跡(国史跡)の礎石建物跡



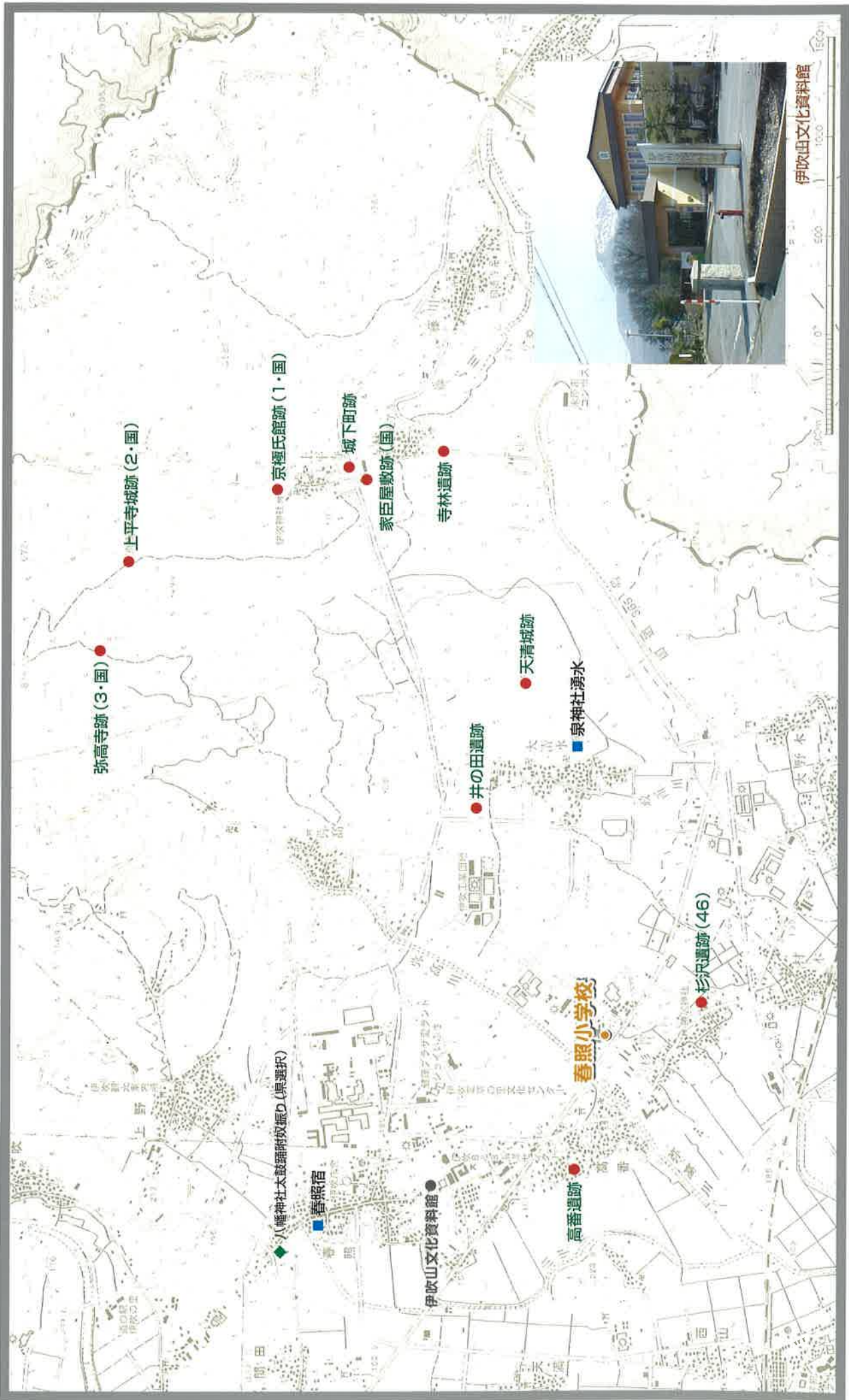
『上平寺城絵図』(市文化財)

校区のトピックス — 春照駅 —

春照には、明治16年(1883)から明治22年(1889)まで、鉄道の駅がありました。当時、敦賀と長浜、大津と神戸は琵琶湖の汽船を通じて開通しており、日本海側と太平洋側が結ばれていました。さらに、東京(新橋)と結ぶために、長浜・関ヶ原間の鉄道が、日本で5番目に早く着工され、ちょうど中間の大きな町だった春照に駅が置かれたのです。



長浜・関ヶ原間の鉄道図



☆遺跡名のあとの(番号)は、米原市遺跡リーフレットに対応しています。

★遺跡リーフレットは、伊吹山文化資料館にあります。

☆(国)(県)(市)は、それぞれ国・県・市の指定文化財をさします。ただし、石造物・史跡・天然記念物・民俗文化財のみ取り上げました。

柏原小学校区

【校区】

長久寺、柏原、須川、大野木、清滝、梓、河内



			2			1
清	み	た	葉	強	み	今
く	ん	て	広	く	ん	日
素	な	る	の	正	な	も
直	仲	明	ほ	し	仲	希
に	よ	る	こ	く	よ	望
	く	い	り		く	の
伸	手	学	た	励	か	朝
び	をと	び	た	む	た	空
る	って	舎	た	の	組	に
の		よ	え	だ	ん	
だ		つ	つ		で	

地域のようす

校区は米原市の東部にあたり、北に伊吹山、南に鈴鹿山系の霊仙山を望む場所にあり、柏原・梓・河内の山地部と、二つの山地にはさまれて細長い形をした長久寺・柏原の地峡部、山東盆地独特の野瀬山や清滝山という独立した山塊の麓に展開する大野木・須川・清滝からなります。また、旧中山道沿いに発達した地域であり、とくに江戸時代には宿場町として栄え、東へ西へと多くの人々がこの地を通り、賑わいを見せました。現在でも、校区内を名神高速道路、・JR東海道本線・国道21号・東海道新幹線が通り、まさに日本の交通の要所となっています。地域を貫流する天野川は、伊吹・霊仙の両山系の石灰岩地帯を流れ、水清く、溪流魚や淡水魚、水棲昆虫の宝庫で、ホタルが飛び交う自然豊かな土地です。



中世の景観がのこる清滝

地域の歴史

近畿で初めて縄文時代の竪穴住居跡が発掘された番^{ばん}の面遺跡^{おもて}は、清滝山から採れるチャートで石鏃を作っていた村で、東西日本の接点という立地を利用して交易をおこなっていました。南北朝時代の婆沙羅^{ばさら}大名・京極道^{どうよ}誉や、関ヶ原合戦の際に大津城に籠城して西軍を足止めにした京極高次が出た京極家の本拠地は清滝で、地区内を東山道が通り、菩提寺・徳源院には中世からの歴代の墓が並びます。江戸時代に整備された中山道は、宿場の町並みが残っていて、伊吹もぐさと福助^{ねものがたり}さんで知られた亀屋左京商店、常夜燈、松や楓の並木、寝物語の里など見どころ満載です。



主な遺跡

■番の面遺跡（縄文時代／河内・柏原）

昭和29年、畑の開墾で縄文土器の破片が出土、翌年発掘調査おこなわれ、近畿ではじめて縄文時代の竪穴住居跡が見つかり、一躍有名になりました。土器もこの地域を代表するものとして「番の面式」と名付けられました。住居跡や土器から、東日本との文化的交流をもとに成立していることがわかりました。



番の面遺跡（市史跡）の石鏃

■京極家墓所（鎌倉～江戸時代／清滝）

丸亀藩2代藩主京極高豊は、初代高和の墓所造営を、初代氏信の菩提寺・清滝寺でおこないました。寺観を整え、散在していた初代からの18基の墓を上段に、下段には京極家を中興した高次の石製靈屋を中心に、丸亀藩と多度津藩歴代の墓所、さらに北畠具行の宝篋印塔などを配置して、先祖の地を聖地化しました。



中世からの歴代墓所（国史跡）

■北畠具行の墓（南北朝時代／柏原）

北畠具行(1290～1332)は、後醍醐天皇の重臣の公家で、元弘元年(1331)鎌倉幕府を倒すために幕府軍と戦いますが、敗北し天皇は隠岐に流されます(元弘の乱)。翌年具行は京極道誉に預けられ、京都から鎌倉に護送される途中、道誉の赦免交渉もむなしく、柏原で斬首されます。墓は16年後に建立されました。



北畠具行の墓

■長比城跡（戦国時代／長久寺・柏原）

滋賀・岐阜両県にまたがる野瀬山の山頂にあり、国境警備の城として築られました。元亀元年(1570)浅井長政の討伐に向かった織田信長は、ここを守っていた堀秀村を味方に引き入れ、落城しました。このとき信長は、長比城に宿泊しています。遺構は東と西の平坦地からなり、東を意識した造りになっています。



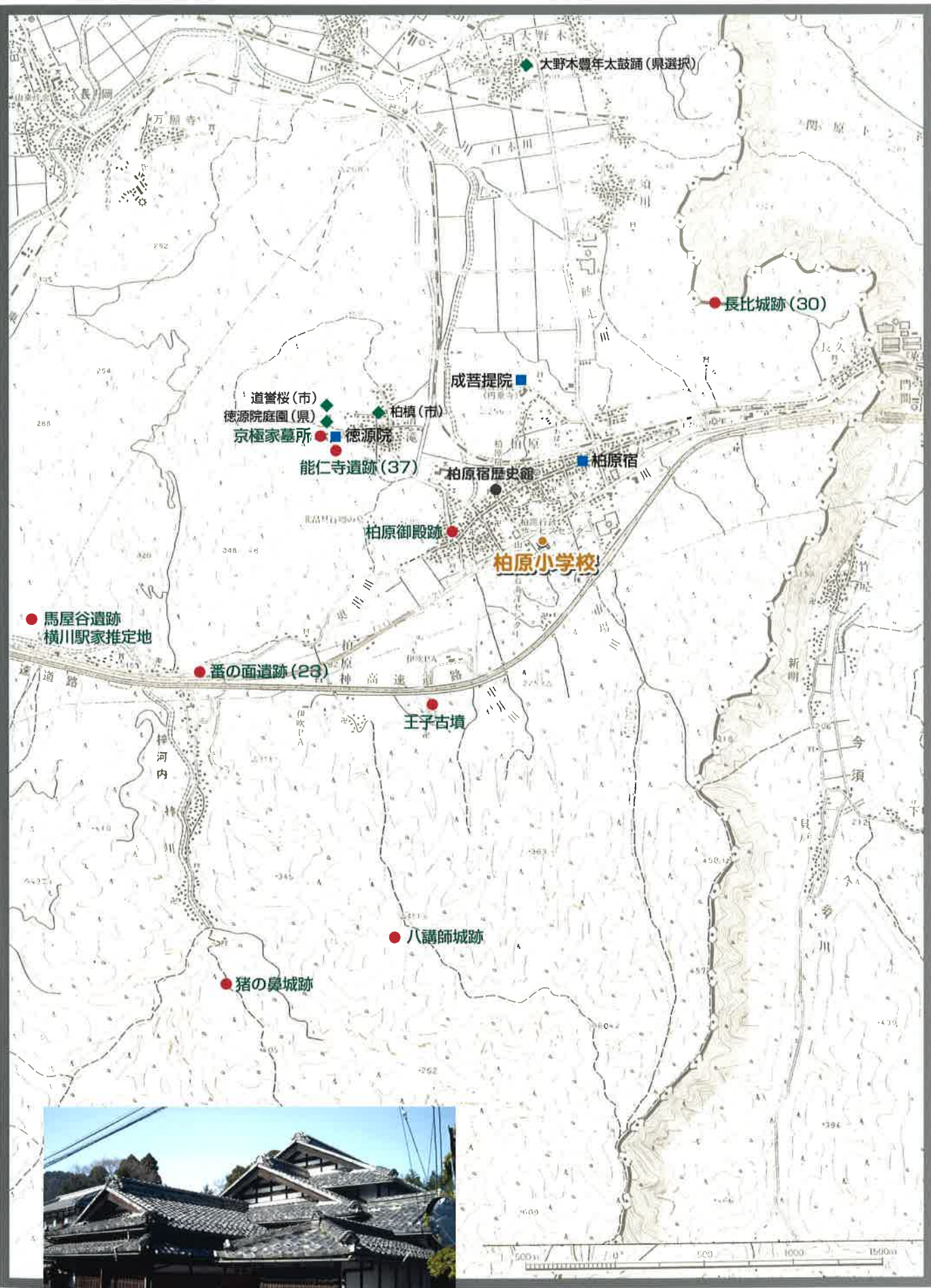
長比城跡から柏原を望む

校区のトピックス —成菩提院—

弘仁6年(815)、伝教大師最澄の開基とされます。戦国武将の保護が厚く、永禄11年(1568)、織田信長が足利義昭を伴って京都への行き来で宿泊しています。天正10年(1582)には丹羽長秀や羽柴秀吉が、同18年・文禄2年(1593)にも秀吉が宿泊しています。関ヶ原の戦いの前には小早川秀秋が宿とし、勝った家康から兵糧米や木材が寄進されました。



成菩提院



柏原宿歴史館

☆遺跡名のあとの(番号)は、米原市遺跡リーフレットに対応しています。
 ★遺跡リーフレットは、伊吹山文化資料館にあります。
 ☆(国)(県)(市)は、それぞれ国・県・市の指定文化財をさします。
 ただし、石造物・史跡・天然記念物・民俗文化財のみ取り上げました。

大原小学校区

【校区】

市場、夫馬、朝日、烏脇、坂口、村居田、井之口、野一色、小田、間田、天満、本市場、池下、山東桜ヶ丘、すみれヶ丘、平和台、グリーントウン坂口、ヴィラ・ルシオール、グリーンヒルズ・朝日



2

水のゆたかな三島池
水が木の間で呼んで
腕を伸ばそうたかど
身体をぎょうも鍛え
担う使命を果たすの
鳩もどこかで鳴いて
われらの大原小学校

1

松の新芽が匂ってる
穂麦はゆれる風の中
あゝこの広い大原野
声をあげよういきいと
元気にきょうも学ぶの
遠く未来をめざすの
雲も明るくうかんで
われらの大原小学校

地域のようす

校区は、米原市の北部にあたり、姉川の中流左岸で、国道365号の沿線になります。東部地域は、小田から野一色まで舌状の段丘となり、ここから南へゆるやかに傾斜して水田が広がります。西部は横山の山麓に集落が並びます。古くは大原野とよばれ、白雉元年(650)に、姉川から取水する「出雲井」と呼ばれる農業用水路が開削されたと伝えられています。また、鎌倉時代中頃に、本市場に館を構えた大原重綱が姉川に井堰を設けて水を引いたという記録もあります。出雲井は、集落内では生活用水としても利用されながら周辺の農地を潤し続けてきました。校歌に歌われる三島池も大原氏が開削しました。大原荘の総鎮守・岡神社で合同の雨乞いの太鼓踊りが踊られるなど、水を大切にしてきた地域です。



出雲井と伊吹山(小田分水)

地域の歴史

岡神社の周辺は、市内の古墳密集地のひとつです。境内で昭和59年に発掘された横穴式石室をもつ高岡塚古墳をはじめ、唐古塚古墳、番庄塚古墳、間田廃社古墳、日御子社古墳など、6世紀後半から7世紀初頭の古墳群が、低丘陵上に分布しています。大原野を開拓した有力者の古墳です。このほか、井之口の皇后塚や烏脇のすも塚。村居田には敏達天皇の妃・息長広姫御陵があります。中世にこの地を支配した大原氏の館跡や、大原氏が伊吹山から降ろし、石田三成とゆかりが深い観音寺。小谷城攻めの前線基地となった横山城など中世の遺跡があります。



主な遺跡

■息長広姫御陵（古墳時代／村居田）

第30代敏達天皇(538～585)の皇后・息長広姫の陵墓に指定されています。広姫は近江地域を拠点とする息長真手王おきながまておうの娘で、孫じよめいの舒明天皇、その子の天智・天武天皇が即位し、息長氏の勢力拡大の大きな要因となりました。元禄9年(1696)に石室せきしつと家形石棺いえがたせつかんが発見されました。隣接する光運寺本堂脇にも古墳が1基あります。



息長広姫御陵

■大原氏館跡（中世／本市場）

鎌倉時代に近江守護佐々木氏が四家に分かれたとき、大原荘を与えられた重綱が大原氏を名乗り、本市場に居館を構えました。大原氏は鎌倉時代には幕府御家人ごけにんとして、室町時代には將軍直属の奉公衆ほうこうしゅうに列して、大原荘の経済力をバックに鎌倉や京都で活躍しました。現在、大きなL字形の土塁と堀が残されています。



大原氏館跡遠景

■大原観音寺（鎌倉時代～／朝日）

もと伊吹山にあった観音護国寺が、大原氏の保護を受け、正元年中(1259～60)に現在地に移転しました。観音寺には、23の僧坊があり、東谷と西谷に分かれていました。さらに西谷には法輪寺10坊があり、各地から伊吹山で修行する山伏の宿坊だったと考えられます。石田三成と秀吉の出会いの地でもあります。



観音寺本堂(重要文化財)

■横山城跡（戦国時代／村居田・烏脇・朝日）

北近江を支配した京極氏の支城として築かれ、その後、浅井長政が本格的に改修しました。長政が織田信長から離反すると、横山城は織田方に落ち、羽柴秀吉らが城番として置かれます。横山の最高地点を北城、そこから分かれる南尾根上に南城があります。北近江を一望できる絶好の位置に築かれています。



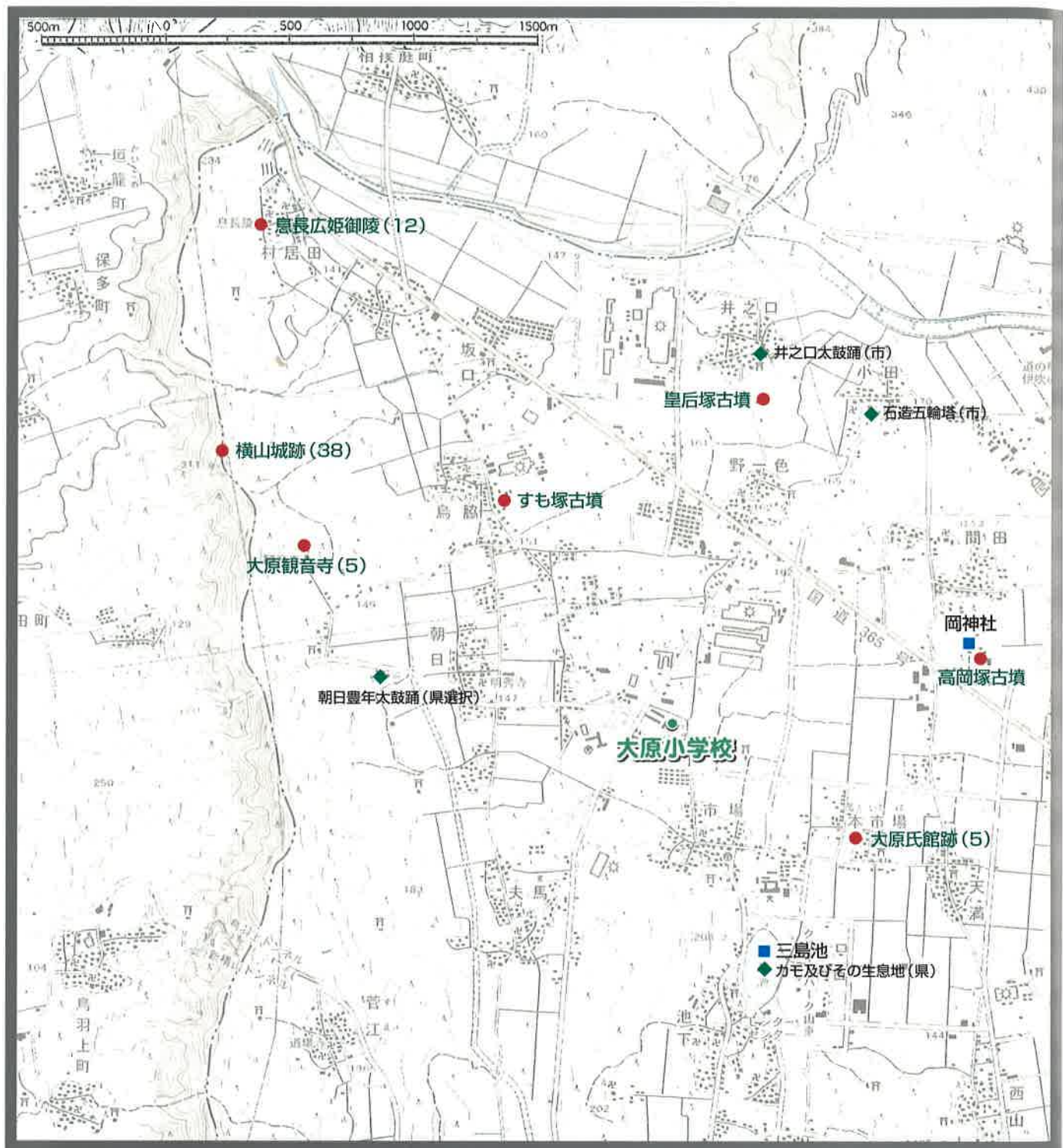
横山城跡から東を望む

校区のトピックス —三島池—

大原重綱が、姉川の伏流水を利用して灌漑用の溜池として人工的に造りました。マガモ(自然繁殖の南限地)などの水鳥の越冬地として知られ、コイやフナ、ゲンジボタルなど生き物の楽園です。2010年、農林水産省の「ため池百選」にも選ばれました。重綱は、伊豆の三島の神を祀り、伊吹山を富士山に、池を駿河湾するがわんに見立てたといわれています。



伊吹山と三島池



朝日豊年太鼓踊

☆遺跡名のあとの(番号)は、米原市遺跡リーフレットに対応しています。

★遺跡リーフレットは、伊吹山文化資料館にあります。

☆(国)(県)(市)は、それぞれ国・県・市の指定文化財をさします。ただし、石造物・史跡・天然記念物・民俗文化財のみ取り上げました。

山東小学校区

【校区】

志賀谷、北方、菅江、山室、大鹿、堂谷、
本郷、長岡、万願寺、西山、加勢野



2

ふれあう 山東小学校
やさしい心 むすびあう
力あわせて 助けあい
愛の歌声 流れくる
蛍とびかう 清流に

1

高くそびえる 伊吹山
元気なあいさつ こだまする
希望にひとみ 輝いて
ねばりづよくて たくましい
のびゆく 山東小学校

地域のようす

米原市の中部にあたり、校区の南端を天野川が流れ、その中流域にあたります。中世には、横山の東西に黒田荘があり、本郷を中心に東黒田とよばれました。また、長岡を中心に長岡荘がありました。多くの集落は、山東盆地とよばれる平坦部にあり、横山丘陵の裾にも集落があります。山東盆地には、標高300~400m級の山地が独立した丘のように点在しています。下向山・愛宕山(長岡)、西ノ山・中ノ山・丸山(池下)、源氏山(池下・加勢野・西山)などで、これらの山々が独特の風景を作りだしています。天野川には特別天然記念物のゲンジボタルが生息し、その保護活動は、大正15年(1926)からはじまり、山東小学校でも、飼育・観察、保護活動が総合的な学習のなかでおこなわれています。



天野川のゲンジボタル(特別天然記念物)

地域の歴史

菅江の集落の名は、須恵器という灰色をした固い土器を焼いていたことに由来します。横山丘陵には、ほかにも須恵器の破片が散布する場所が知られていて、奈良時代を中心にした須恵器の一大生産地があったのかもしれない。北方田中遺跡や西代遺跡(志賀谷)の調査では、奈良から平安時代にかけての多くの建物が整然と並び、出土品などから、この地方を治めた郷長の役所ではないかと考えられています。長岡には京極満信の墓があり、二人の息子が長岡氏・黒田氏を名乗りました。黒田氏は戦国武将黒田官兵衛の先祖ともいわれ、本郷には、黒田家ゆかり社寺があります。



主な遺跡

■菅江遺跡（奈良時代／菅江）

奈良時代前半から中頃の須恵器を焼いた半地下式の登り窯^{のぼがま} 1基と、灰や焼き損じを捨てた場所が2カ所みつかりました。菅江遺跡は市内で須恵器の窯跡として初めて調査された遺跡です。出土品には大型のものはほとんどなく、中型製品が大半でしたが、バラエティーに富んだ種類の須恵器が出土しています。

■北方田中遺跡（奈良～平安時代／北方）

奈良時代末期の掘立柱建物、平安時代の掘立柱建物、溝や門、鎌倉時代の井戸、道路などが出土しました。倉庫や土間がある建物、庇が三面につく格式の高い建物が含まれ、南北方向に整然と並んでいたことから役所的な遺跡と考えられます。井戸からは"水が永遠に満つる" "疫病を封じ込める" などの願いを込めた3点のお札が見つっています。

■伝京極満信の墓（鎌倉時代／長岡）

長岡の阿弥陀堂の前に、京極満信のものと伝えられる鎌倉時代中頃のほぼ完形の宝篋印塔^{ほうきょういんとう}があります。阿弥陀堂は、満信が創建した東福寺の跡です。満信は、京極氏初代氏信の三男で、長岡荘を領地としました。二人の息子が長岡荘を分け、宗氏が北半分を相続して長岡氏、宗満は南半分を領して黒田氏を名のりました。

■黒田家ゆかりの社寺（中世／本郷）

御屋敷^{おやしき}とよばれる黒田氏の居館跡は、1町四方(約108m)あり、水路がとりまいています。神社境内には、土を盛った土塁の跡が一部残っています。江戸時代には代官所として使われました。荒尾神社はもと黒田神社と称し、黒田家の始祖宗満を祀っています。法證寺ももとは法泉寺と称し、黒田家の菩提寺でした。

校区のトピックス — 播隆上人 —

江戸時代後期（文政年間）、伊吹山を拠点に活動した念仏行者・播隆^{ばんりゅう}は、北アルプスの槍ヶ岳を開山したことで知られています。伊吹山に播隆屋敷と呼ばれる場所があり、志賀谷の信徒が、ここを修行地にすることを願い出た文書が残されています。播隆を慕って人々が山に登り、山麓には志賀谷を中心に、播隆上人の南無阿弥陀仏の軸や石碑があります。



珍しいドーナツ型の須恵器



掘立柱建物跡(北方田中遺跡)



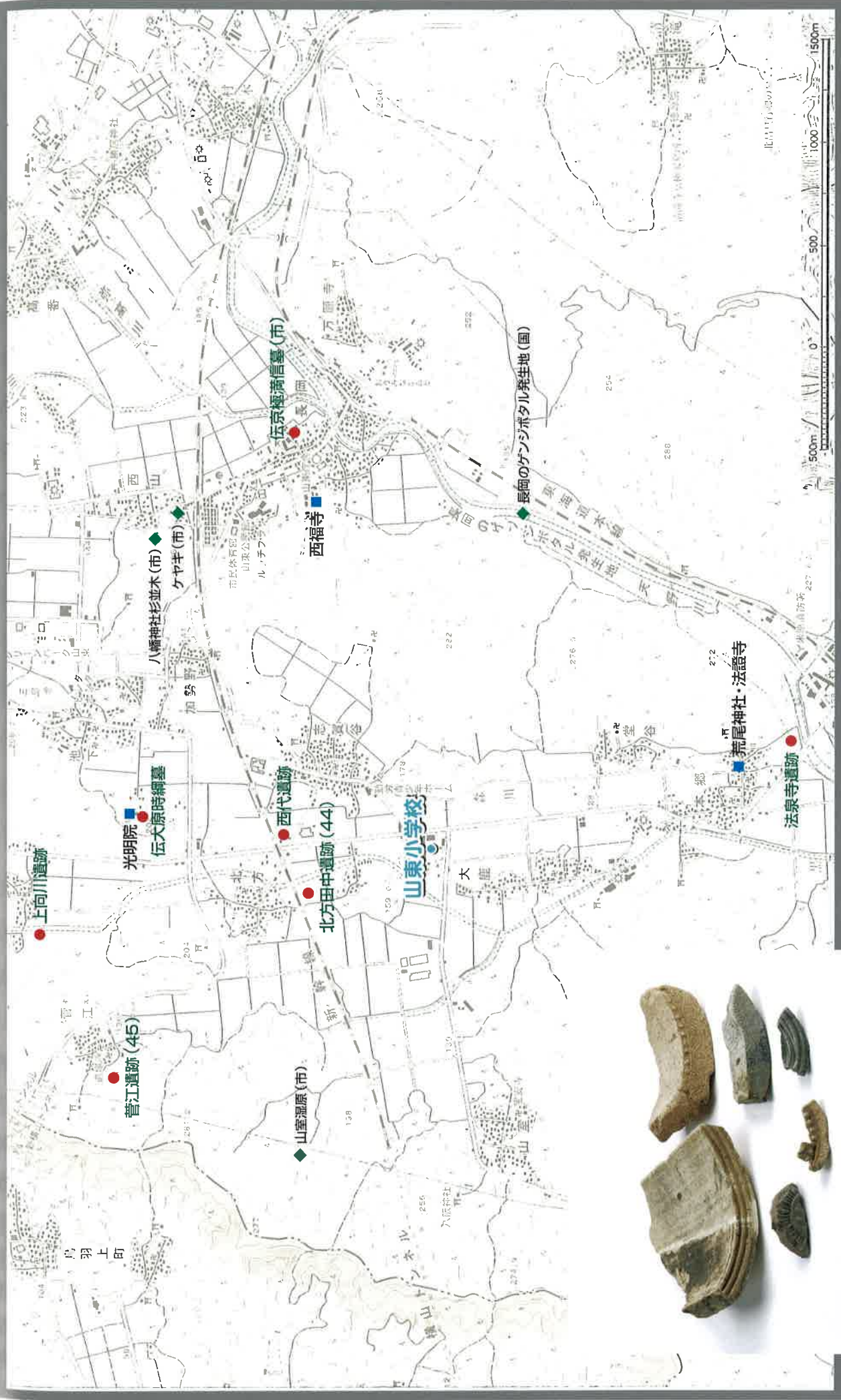
伝京極満信墓



荒尾神社と法證寺



播隆名号碑(志賀谷秋葉神社)



☆遺跡名のあとの(番号)は、米原市遺跡リーフレットに対応しています。

★遺跡リーフレットは、伊吹山文化資料館にあります。

☆(国)(県)(市)は、それぞれ国・県・市の指定文化財をさします。ただし、石造物・史跡・天然記念物・民俗文化財のみ取り上げました。



法泉寺遺跡の古代瓦

学校のまわりの宝物

息長小学校区

【校区】

多和田、能登瀬、日光寺、寺倉、新庄、
箕浦、西円寺、岩脇、近江さくらが丘、
リバティー近江



			2				1	
御	学	い	こ		ゆ	つ	音	い
国	び	づ	こ		か	ぎ	の	そ
の	の	の	こ		り	せ	さ	こ
為	道	敏	こ		も	ぬ	や	せ
に	に	心	に		ふ	里	け	ぢ
勉	い	ふ	集		か	と	さ	な
め	そ	り	へ		き	息	さ	る
な	し	起	る		学	長	未	天
ん	し	こ	我		び	の	か	の
	み	し	が		舎		け	川
	て	し	童		よ		て	
			は					

地域のように

校区は米原市の西部にあたり、見渡せば小高い山々が連なり、近くには天野川が穏やかに流れる自然豊かなのどかな田園地帯です。しかし、校庭脇には北陸自動車道が通り、名神高速道路や米原駅にも近い交通の便のよいところでもあります。地域は、横山丘陵の南西側裾部と、その西側に発達する天野川の堆積作用による三角州と氾濫原から成り立っています。東部の集落は、横山丘陵の南端山際にあり、西部の集落は横山山麓の天野川沖積平野。南部の集落は天野川流域に立地します。古代豪族・息長^{おきなが}氏の拠点であり、古代には息長荘が置かれ、校歌に歌われます。中世には、箕浦^{あさづまみなど}荘や朝妻荘となり、都から東国へ向かう東山道と中世北国街道や、琵琶湖東部の要港・朝妻湊への分岐点として発展しました。



陸上・河川交通が交わる近江地域

地域の歴史

近江地域では、縄文時代から奈良時代にかけて連綿と営まれた集落跡が見つっています。古墳時代のはじめには、水辺の祭の場が見つかった黒田遺跡（箕浦・顔戸^{ごうど}）が中心となります。集落を囲む大規模な溝や祭りの場、首長墓^{しゅちようぼ}を伴う集落遺跡が発掘されています。息長氏の墳墓群は3世紀前半から築かれはじめ、西円寺では3世紀後半の溝を巡らせ、低く土を盛った墓が見つかりました。息長古墳群では、6世紀前半の山津照神社古墳まで丘陵や平野部で確認されている主要なものだけで22基を数えます。中世には京極氏の家臣・今井氏が、地域の経済力を背景に勢力を持ちます。



主な遺跡

■山津照神社古墳（古墳時代／能登瀬）

全長46mの前方後円墳で、明治15年(1882)、後円部から横穴式石室が発見されました。石室の中から銅鏡、金銅製冠、刀、玉類、馬の道具や土器が出土しました。冠は、福井県若狭町や高島市で出土したものと共通し、大陸からの影響があります。新庄の尾根上には9基の方形の古墳からなる定納古墳群があります。

■箕浦城跡（中世／箕浦・新庄）

市内の在り領主の平地居館のなかで最も大規模に築かれていたのが今井氏の箕浦城です。天野川北岸に井戸村屋敷・奥屋敷・新庄城と横一列に並んでいました。今井氏は、京極氏の古くからの家臣で、現在も水田中に高くなった土地があり今井氏の居館と伝えられています。箕浦には商人が集まる市場があり発展しました。

■新庄家墓所・今井一族の墓（中世／寺倉・西円寺）

総寧寺(寺倉)には、巨大な五輪塔がならぶ新庄氏の墓所があります。新庄氏は、新庄の在り領主で、浅井氏の家臣として朝妻城を守ります。関ヶ原の戦いで西軍に属し領地を失いますが、慶長9年(1604)、常陸国麻生藩主として三万三百石を与えられ大名に復帰しました。西円寺には今井氏一族の墓があります。

■機関車退避壕（戦争遺跡／岩脇）

米原駅は東海道本線と北陸本線をつなぎ、太平洋戦争中には兵員の輸送や、兵器を運搬する重要な場所でした。このため連合軍の攻撃目標となり、空襲を避けるために列車壕が計画されました。米原駅から北に約2キロの岩脇山まで線路が延び、南斜面に2カ所掘られましたが、未完のまま敗戦を迎えました。

校区のトピックス — 奉納角力 —

息長小学校には市内で唯一、立派な土俵があり、昭和16年(1941)から相撲大会が伝統行事としておこなわれています。近江地域には、山津照神社と日撫神社に奉納角力が伝えられています。相撲は収穫を祈願する神事がはじまりですが、こちらでは鎌倉幕府討幕をはかるために、ひそかにこの地を訪れた後鳥羽上皇の前で披露したと伝えられています。



金銅製冠
(県考古資料)



定納古墳群



水田の中の今井氏の居館跡



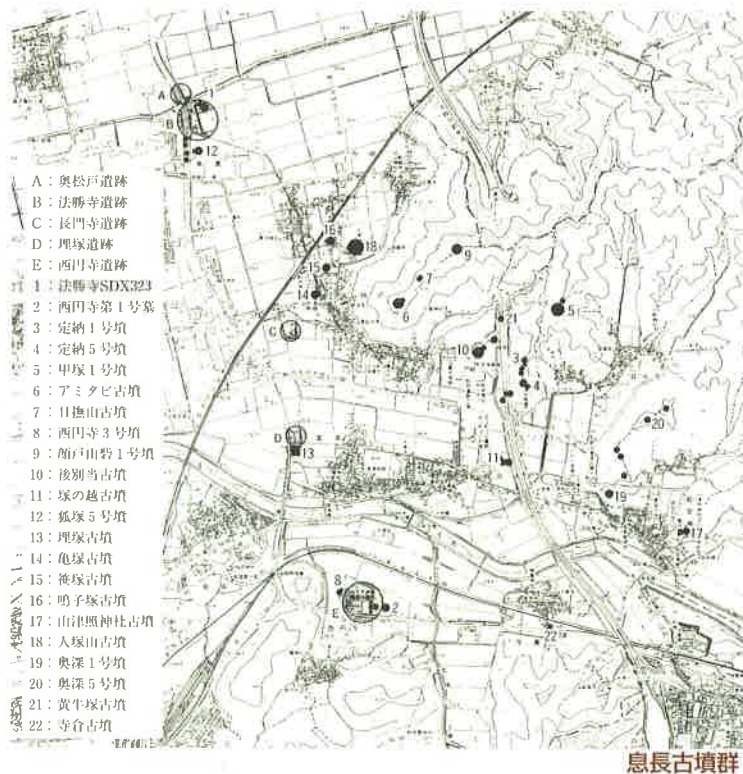
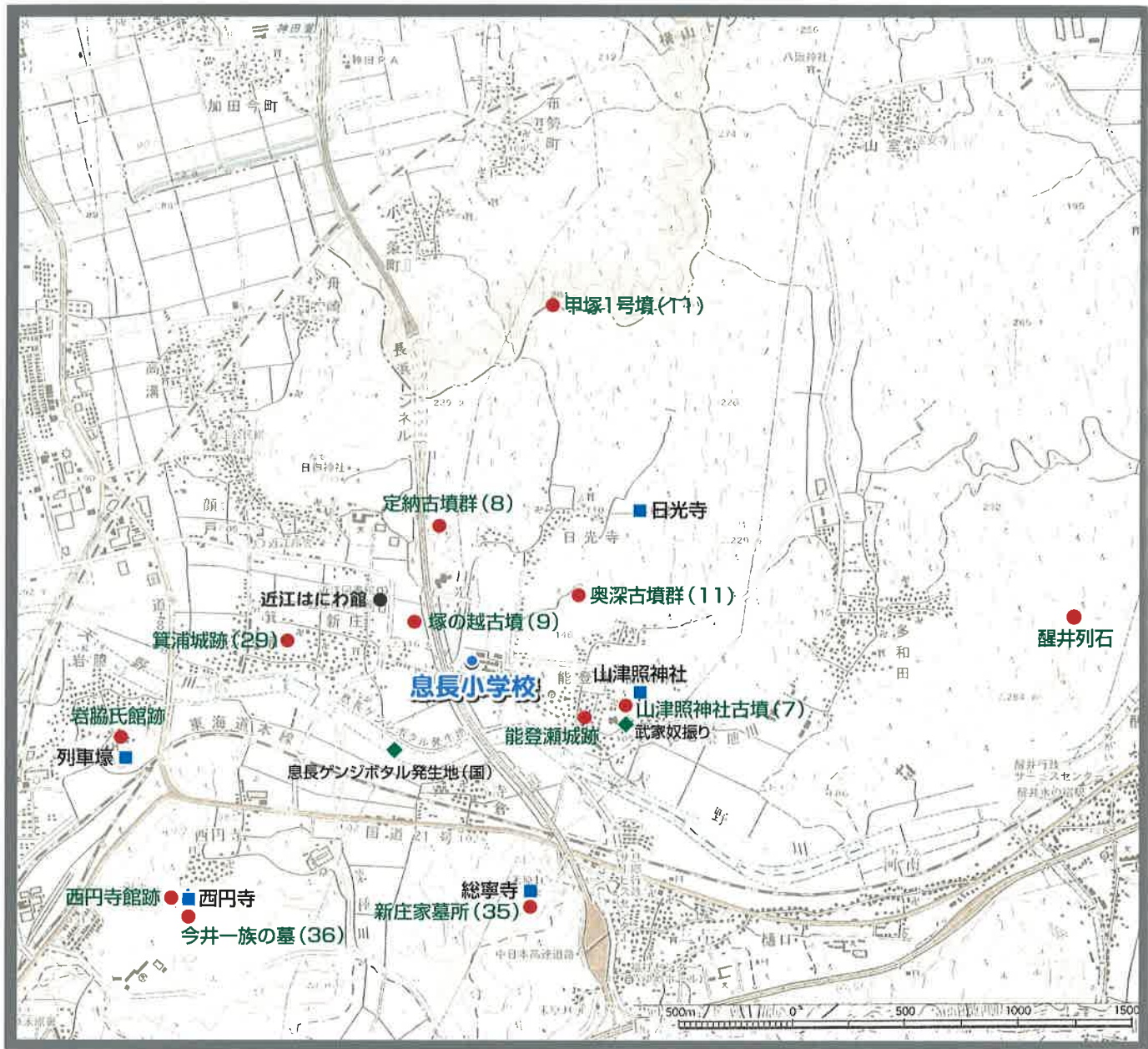
新庄家墓所(左)
今井一族の墓(右)



地域で整備された列車壕



山津照神社の奉納角力



息長古墳群

☆遺跡名のあとの(番号)は、米原市遺跡リーフレットに対応しています。

★遺跡リーフレットは、伊吹山文化資料館にあります。
 ☆(国)(県)(市)は、それぞれ国・県・市の指定文化財をさします。ただし、石造物・史跡・天然記念物・民俗文化財のみ取り上げました。



近江はにわ館

坂田小学校区

【校区】

舟崎、高溝、顔戸、長沢、宇賀野、飯、世継、
 ニュータウン重町、近江グリーンタウン、
 サンライズ近江、母の郷ニュータウン、
 レイクサイド宇賀野、高溝東、
 サンヴィレッジ高溝、リーディング坂田



学校のまわりの宝物

2

坂田 正 明 水 広
 田 しく る ろ た く
 坂 しく い ろ た ゆ
 田 伸 姿 い た た か
 小 びる すくすくと おおらかな
 学 校 良いい子らの 琵琶の湖

1

坂田 体 手 朝 気
 田 体 も を は 高
 小 強 く と り は る く
 学 校 よい子らの すくすくと 仰ぎつつ
 山

地域のようす

校区は米原市の西部にあたり、琵琶湖に面して
 いて、山地や丘陵がほとんどなく、豊かな田園地
 帯が広がっています。地形は横山丘陵の西縁部と、
 校区の南端を流れる天野川の堆積作用による三角
 州および氾濫原からなっています。また、宇賀野
 ・顔戸・長沢などの集落は、天野川の流れに沿っ
 て形作られた微高地である自然堤防上に営まれ、
 世継の集落は、波に運ばれてきて堆積したもので形成された、湖とほぼ並行する浜堤(丘)上
 にあります。古代には阿那郷または息長荘がおかれ、息長氏の拠点であり、多くの遺跡があ
 ります。中世には朝妻荘となり、東国の人や物資が、天野川の河口の朝妻湊から都へ運ばれ、
 北陸への北国街道が、中世は顔戸・高溝を通過し、近世には宇賀野や長沢を通っています。



息長氏の記念碑(顔戸)
ひんてい

地域の歴史

弥生時代後期から古墳時代にかけて顔戸遺跡群や高溝遺跡・法勝寺遺跡(高溝)や黒田遺跡
 (顔戸・箕浦)などで、集落を囲む大規模な溝や水辺での祭りの場、首長墓を伴う集落遺跡が
 発掘されています。狐塚5号墳は、平野部に埋没していた6世紀初頭の帆立貝形古墳で、さ
 まざまな埴輪が出土しました。白鳳時代、仏教が国の教えとなると、天野川流域に古代寺院
 が建立されます。中世には岩脇氏・若宮氏・田那部氏・長沢氏・慶増氏・遠藤氏・嶋氏など
 の在地領主の居館が築かれます。山内一豊の妻は若宮氏の出身と伝えられています。



主な遺跡

■顔戸遺跡群（縄文～平安時代／顔戸・高溝）

縄文時代の遺物を多く出土し、次いで、弥生時代後期から古墳時代中期にかけて大規模な集落が営まれました。高溝遺跡では倉庫跡などがみつき、さらに、集落を囲む環濠(堀)が高溝遺跡や顔戸遺跡で出土しています。平安時代には、平野部を統一した方位で、一辺108mの水田に区画する条里が普及します。

■狐塚5号墳（古墳時代／高溝）

5基の古墳群が水田の下でみつかりました。5号墳はもともと古く、西側に張り出した造り出しをもつ全長30mの帆立貝の形をした古墳です。古墳をめぐる周溝から鳥の形をした木製品が出土し、造り出しからは家形埴輪・盾形埴輪・靱形埴輪・太刀形埴輪・蓋形埴輪・人物埴輪・鶏形埴輪などが出土しました。

■法勝寺廃寺（白鳳～平安時代／高溝）

息長氏の氏寺とされるのが法勝寺跡です。範囲は二町(220m)四方と想定されています。屋根にふかれた軒丸瓦は4種類あり、白鳳時代から平安時代まで続いたことがわかりました。天野川流域では、三大寺跡(枝折)や正恩寺跡(飯)、磯廃寺(磯)などが建立されますが、奈良時代初頭に廃絶しています。

■法秀院の墓（江戸時代／宇賀野）

戦国大名・山内一豊の母法秀院は、4人の子どもを連れて宇賀野の長野家に身を寄せました。近所の子どもに裁縫や行き儀見習いを教え、そのなかに、のちに一豊の妻となる若宮喜助友興(飯)の娘・千代がいました。江戸時代に山内家は土佐20万石の大名となります。墓所には、嘉永7年(1854)の台座が残されています。



水路の遺構(高溝遺跡)



狐塚5号墳出土の埴輪



法勝寺の遺跡



平成9年改修された法秀院の墓

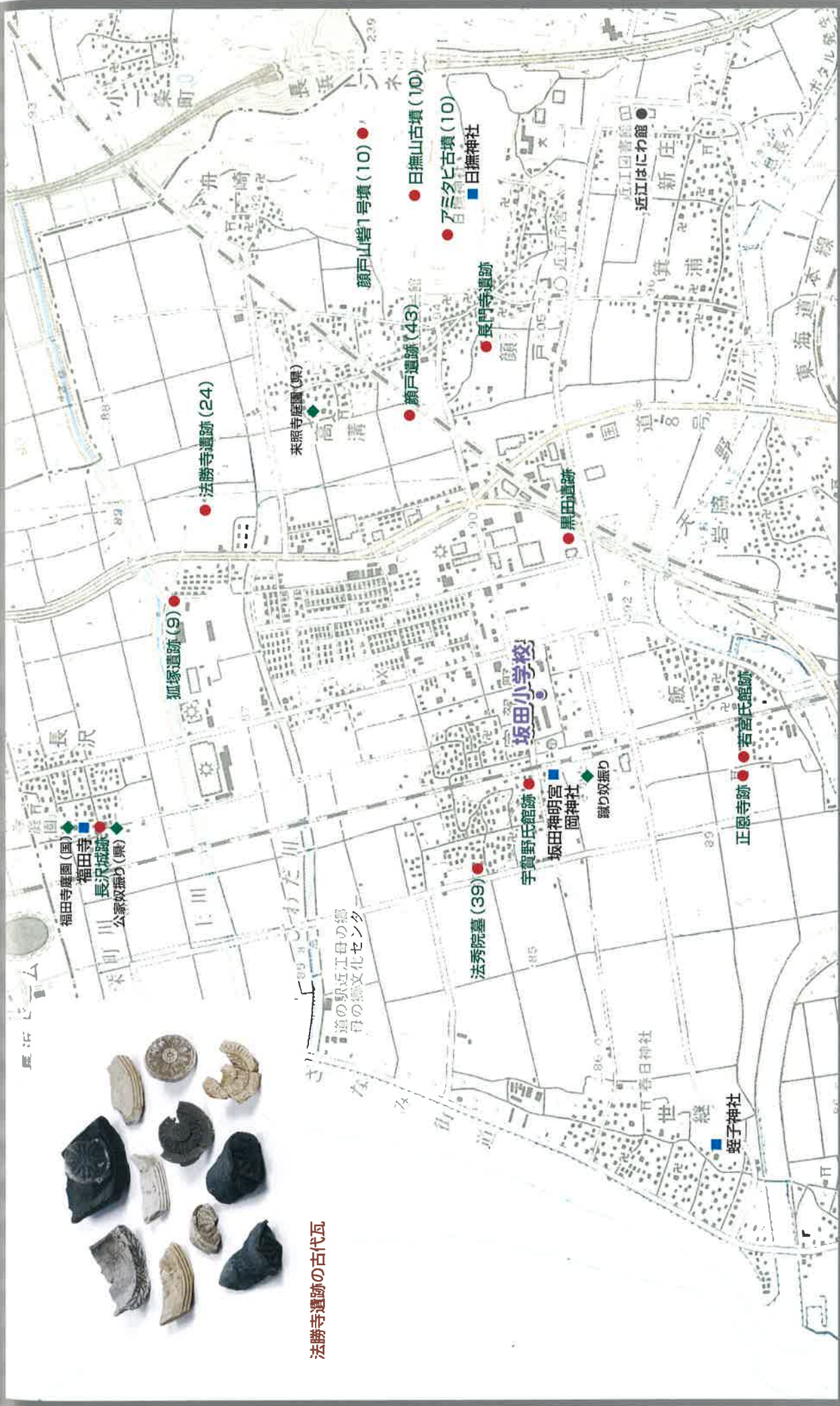
校区のトピックス —近江の奴振り—

近江地域では三つの奴振りが社寺に奉納されています。公家の姫君のお輿入れ行列を伝えるのが福田寺(長沢)の公家奴振りです。掛け声とともに、足裏を見せずに優雅に練り歩きます。宇賀野の奴振りは、前傾姿勢で、足を尻に届くくらい蹴り上げる動作から蹴り奴と呼ばれます。彦根藩の殿様の行列を再現したものです。能登瀬には武家奴が伝わります。



福田寺公家奴振り(県文化財)

学校のまわりの宝物



法勝寺遺跡の古代瓦

☆遺跡名のあとの(番号)は、米原市遺跡リーフレットに対応しています。

★遺跡リーフレットは、伊吹山文化資料館にあります。

☆(国)(県)(市)は、それぞれ国・県・市の指定文化財をさします。ただし、石造物・史跡・天竺文化財のみ取り上げました。

河南小学校区

【校区】

河南、樋口、南三吉、三吉、西坂、東番場、西番場、一色、醒井、枝折、下丹生、上丹生



<p>2</p> <p>伸びよう 河南小学校</p> <p>やさしい心の 子になって</p> <p>明るい笑顔と 思いやり</p> <p>みんなの夢を うつす川</p> <p>蛍とびかう この川は</p>	<p>1</p> <p>学ぼう 河南小学校</p> <p>いつも元気な 子になって</p> <p>高い理想を 育てあい</p> <p>みんなの希望 ひらく窓</p> <p>霊仙仰ぐ この窓は</p>
--	---

地域のようす

校区は、米原市の南部にあたります。南の霊仙山の山懷に抱かれ、学区の北を天野川が西へながれます。霊仙山から北に向かう山地は、次第に低くなって、天野川に浸食されてうまれた低地に達します。この山地は、天野川の支流の丹生川・和佐川・菜種川の浸食によって刻まれ、3本の狭長な谷底平野を作りだしています。集落は、



醒め井宿資料館(旧問屋場)

北の横山と南の霊仙山塊に挟まれた天野川の河谷に沿う樋口・河南・醒井・一色、菜種川に沿う集落、和佐川沿いや、枝折川・丹生川に面する集落で構成され、かつては霊仙山中腹に榎ヶ畑の集落がありましたが、昭和32年に廃村となりました。また、番場・三吉・樋口・河南・醒井・一色は、中世までは、都と東国を結ぶ東山道。近世は中山道上に立地しています。

地域の歴史

奈良の都で絵師として活躍した息長丹生真人という、息長氏の一族が、丹生川の谷の出身とされます。この谷には、下丹生古墳などの古墳も多く、白鳳時代には醒井に三大寺が造立されました。霊仙山から湧く清流で名高く、水を介して仏縁を結んだ高僧の伝説や、この地出身ともいわれる霊仙三蔵や法性坊尊意(13世天台座主)を輩出し、山岳寺院・松尾寺は、いまでも霊仙信仰の拠点です。一方、太平記に「東山道一の難所」とうたわれた番場は、蓮華寺を中心に中世の景観が広がり、周辺には鎌刃城などの山城があります。合併前の校歌には霊仙・醒井の水・中山道がうたわれていました。



主な遺跡

■ 下丹生古墳（古墳時代／下丹生）

下丹生古墳は市内で唯一、横穴式石室内に入れる古墳です。集落の東側の小高い丘の上、標高約150mに立地する6世紀後半の円墳です。規模は直径約14.5m、高さ約3.5mで、丘陵斜面上にあり集落から見上げるとかなり大きく見えます。逆に古墳からは集落中心部が一望でき、眺望を意識した立地がうかがえます。



下丹生古墳（市史跡）の石室

■ 三大寺廃寺（白鳳時代／醒井・枝折）

明治36年、醒井小学校で白鳳時代のお寺の瓦が多量に出土しました。昭和57年の調査で、7世紀後半から8世紀初頭の建物の基礎となる基壇が出土しました。その規模は東西24m×南北21mで、三大寺の建物跡と考えられました。山が迫った地形から、壮大な伽藍が立ち並ぶものではないようです。



三大寺廃寺の軒丸瓦と軒平瓦

■ 松尾寺跡（奈良～江戸時代／上丹生）

松尾山の東南山腹標高420m地点えんのぎょうじゃにあり、役行者が飛行観音を安置したことにはじまります。戦国時代には武将からの信仰が厚く、江戸時代には本坊と50余りの坊院がありました。調査で、尾根上とその側面に大小60近くの削平地が星形に展開することが確認され、9世紀後半から10世紀中頃の土器片が出土しました。



昭和56年の豪雪で倒壊する前の日本堂

■ 鎌刃城跡（戦国時代／番場）

鎌刃城跡は標高384mの山頂に築かれた典型的な山城です。戦国時代に堀氏によって築かれたとされます。この辺りは南の六角氏と北の京極氏・浅井氏の勢力の境で、たびたび戦場となりました。元亀元年(1570)、織田信長が浅井を攻めると、堀秀村は織田方に付き、一説に坂田郡で6万石を賜ったといわれています。



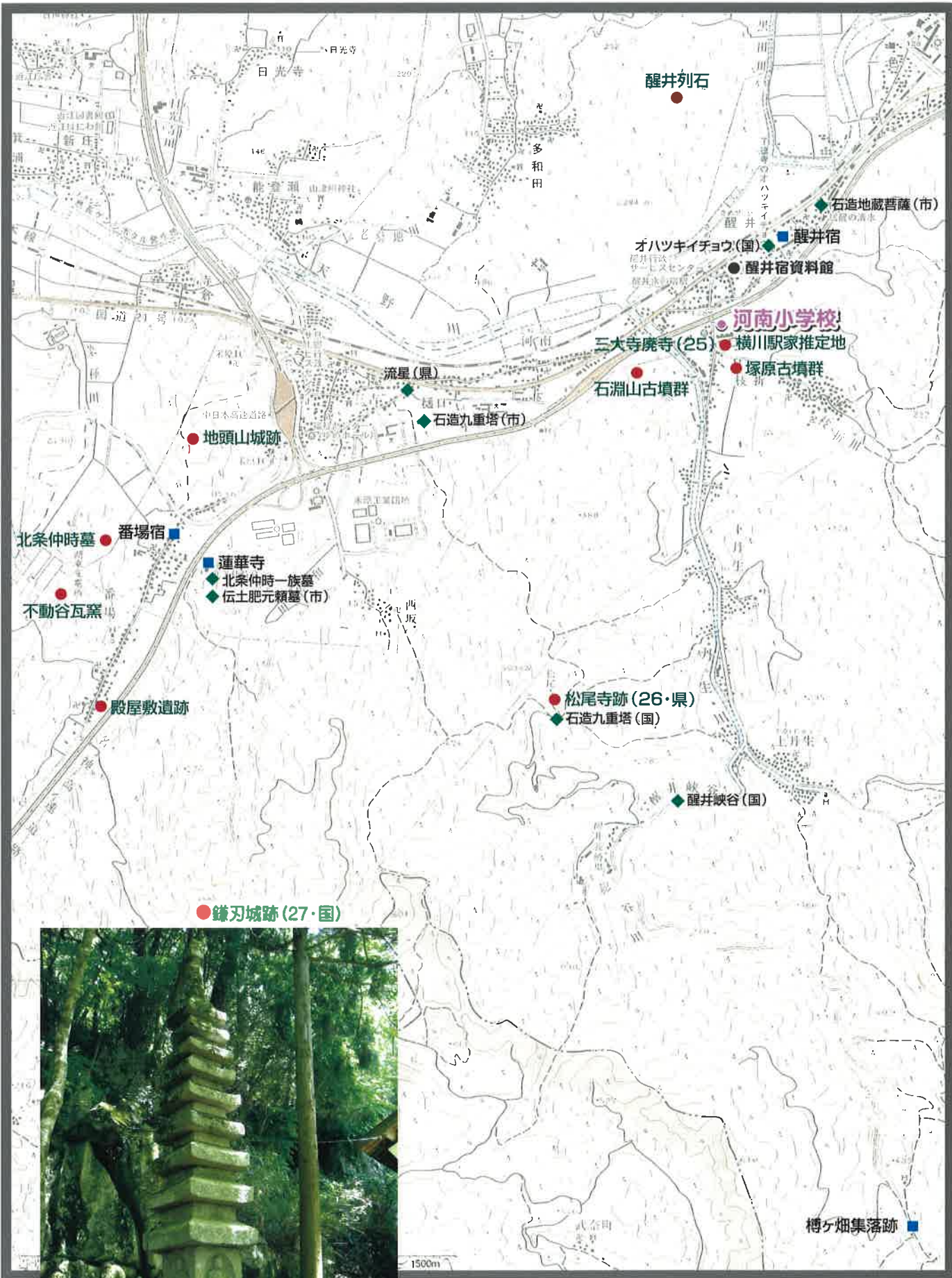
鎌刃城跡（国史跡）の虎口

校区のトピックス —木彫—

都で寺院造営の絵師として活躍した丹生真人一族の芸術伝統は、いまの木彫技術に息づいています。上丹生の彫刻は、江戸時代末期、上田勇助とその友人が京都に修行に出て、技術を持ち帰り、神社仏閣などの大きいものから、欄間や仏壇彫刻など多種多様なものをてがけています。番場の泉亮之いずみすけゆきは、どくろ髑髏を彫らせると「その技神に入る」といわれました。



泉亮之作日本武尊像
(大正9年／上野区蔵)



石造九重塔(松尾寺)

☆遺跡名のあとの(番号)は、米原市遺跡リーフレットに対応しています。
 ★遺跡リーフレットは、伊吹山文化資料館にあります。
 ☆(国)(県)(市)は、それぞれ国・県・市の指定文化財をさします。
 ただし、石造物・史跡・天然記念物・民俗文化財のみ取り上げました。

米原小学校区

【校区】

梅ヶ原、米原、米原西、下多良、中多良、上多良、多良、朝妻、筑摩、磯、入江、賀目山、米原ステーションタウン



1

伊吹の峰の空高く

朝日輝く学び舎に

愛の光をかかげつつ

清く正しくすこやかに

生きていこうよ胸はって

あわれらの米原小学校

2

びわの湖波白く

よせてはかえすさざなみに

未来の夢をえがきつつ

希望も高くたくましく

のびていこうよかぎりなく

あわれらの米原小学校

地域の様子

校区は米原市の西端にあたります。天野川が北端を流れ、朝妻で琵琶湖にそそぎます。米原駅の東側には太尾山がありますが、校区はすべて天野川によって形成された平野部にあります。米原駅に南西部には、内湖としては大中の湖に次ぐ広さの入江内湖がありましたが、戦時中の食糧難による干拓事業で広い田地にかわりました。入江内湖の南西端にある磯山は、かつて入江内湖・松原内湖と琵琶湖に囲まれた島のような景観でした。ここから延びる長さ約2kmの砂州が琵琶湖と内湖を分け、磯の集落はこの砂州上にありました。米原と梅ヶ原の集落は旧北国街道上にあり、江戸時代、米原は宿場町として、また、彦根三湊のひとつとして物資の集積地になりました。現在では鉄道のまちとして知られています。



米原駅からみたかつての入江内湖

地域の歴史

入江内湖遺跡からは、国内最古級の縄文時代前期前半の丸木舟など5艘がみつき、古墳時代までのさまざまな木製品や骨製品が出土しています。磯山城遺跡からは、県内最古の縄文時代早期の人骨が出土しました。筑摩佃遺跡から出土した河童型土偶は、富山県を中心に分布していることから、これを信仰する北陸の人々が米原に移り住んだことがわかりました。琵琶湖と内湖、天野川、磯山や太尾山に囲まれた米原の地は県内でもっとも早く開け、住みやすかった場所でした。弥生時代にもいち早く米作りがはじまりました。戦国時代、この地は南北近江の境目として、磯山城・佐和山城・太尾山城などが築かれます。



主な遺跡

磯山城遺跡（縄文時代／磯）

縄文時代の長期にわたる土器が出土しており、さらに東海・北陸・中部山岳地方など各地の特徴をもつ土器があり、石器には大阪府二上山産のサヌカイト、島根県隠岐島産の黒曜石などが使われていて、縄文時代の交易圏の広さがわかりました。縄文時代早期の人骨は、仰向きで腰の部分から足をまっすぐに頭部まで曲げられていました。



縄文早期の人骨（磯山城遺跡）

入江内湖遺跡（縄文～平安時代／入江ほか）

縄文時代早期から平安時代までの大規模な複合遺跡です。土器のほか、縄文時代の骨製のヤスや釣針、古墳時代の鉄製ヤス・網の錘など漁業に関わるものが多く出土しています。泥で密封されているので、木製品がのこり、縄文時代の丸木舟や漆塗りの器のほか、古墳時代の農耕具、たも、弓などがみつかっています。



木製農具（入江内湖遺跡）

朝妻湊跡（奈良～中世／朝妻）

奈良時代から中世の琵琶湖東部の重要な湊でした。古代には、朝廷に食物を納める筑摩御厨が隣接していました。東日本や北陸に通じ、東からの人や物資が、大津を経て都へとつながる琵琶湖の東の玄関口です。中世には新庄直頼により朝妻城が築かれました。江戸時代には、米原湊にその役割が移りました。



朝妻湊跡

太尾山城跡（戦国時代／米原）

在地領主米原氏が築いたといわれています。たびたび六角氏と京極氏・浅井氏の抗争の舞台となります。標高254mの山頂にあり、北城と南城から構成される「別城一郭」の構造で、南近江との境目にある磯山城跡や葛蒲嶽城跡も同じ構造です。土塁を巡らした郭や、尾根筋を切断する堀切などが設けられています。



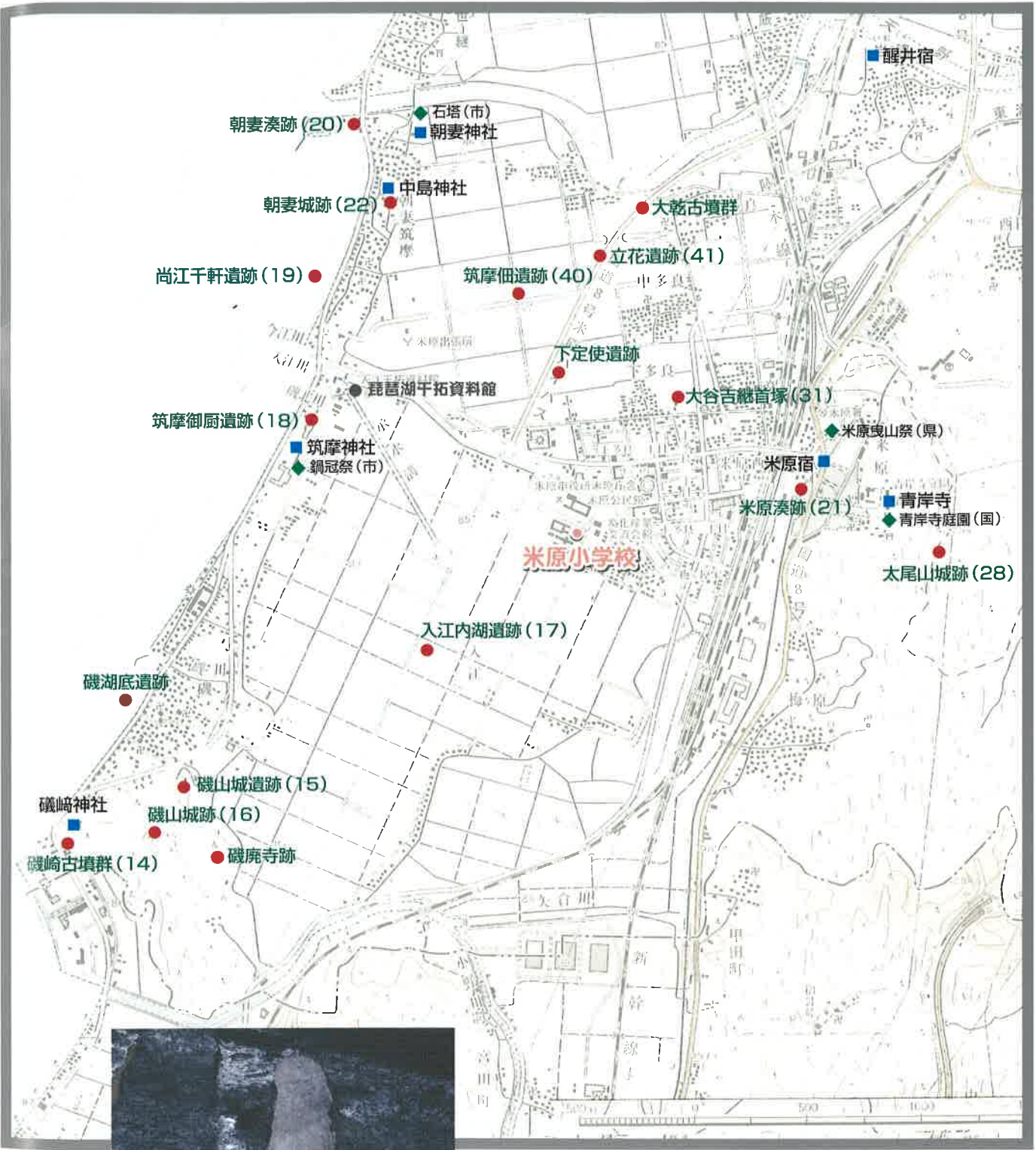
太尾山城の建物跡

校区のトピックス —土偶—

土偶は縄文時代に作られた、安産や豊穰、災い除けなどのまじないの土人形です。東日本に多く、近畿では数も少なくてもシンプルです。筑摩佃遺跡の土偶は県内で一番大きく、皿のような頭から河童型土偶と呼ばれ、北陸で集中的に出土しています。筑摩佃遺跡の土器にも北陸のもの多く、縄文中期にこの土偶を祀る北陸の人々が移住してきたようです。



河童型土偶（市文化財）



5号丸木舟出土状況(入江内湖遺跡)

☆遺跡名のあとの(番号)は、米原市遺跡リーフレットに対応しています。
 ★遺跡リーフレットは、伊吹山文化資料館にあります。
 ☆(国)(県)(市)は、それぞれ国・県・市の指定文化財をさします。
 ただし、石造物・史跡・天然記念物・民俗文化財のみ取り上げました。



学校のまわりの宝物 一遺跡で九とる米原の歴史一 2015.3

米原市教育委員会 〒521-0242 滋賀県米原市長岡1206 TEL0749-55-4552